

診療計画説明書

腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術

終了基準	・発熱がない				傷に問題が無い			
経過	手術前日	手術当日(前)	手術当日(後)	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5日目(退院日)
月/日	/	/	/	/	/	/	/	/
達成目標	・手術を受ける身体的準備ができる ・手術について理解できる		・合併症の症状がみられない ・痛みのコントロールができる ・傷に問題がない				・日常生活の注意点について理解できる	
検査処置	・臍をきれいにします ・血栓予防のためハイソックスを装着し着用テストをします	・昨日試着したハイソックスをはきます	・酸素マスク、自動血圧計、心電図モニターが翌日までつきます (・お腹に管が入ってきます) (・持続の痛み止めの注射の管が入ってくる場合があります)	・適宜、胸とお腹のレントゲン、採血をします ・血栓予防のハイソックスは歩けるようになるまで装着します		 		
薬剤	・現在内服している薬がある方は看護師にお知らせください ・寝る前に下剤と胃液を抑える薬を飲みます	・指示にて朝、薬を内服することがあります	・24時間持続点滴をします ・抗生物質などの点滴をします	・点滴が終了すれば管をぬきます		(・お腹の管をぬきます) (・持続の痛み止めの管が入っている方は痛み止めの管をぬきます)		
食事	・午後9時より絶食です ・眠前に経口補水液を飲んでください (状態により変更があります)	・朝から指示の時間まで経口補水液を飲んでください。その後は飲水ができません(時間など詳細は別途指示します) (状態により変更があります)	・喉が渴いたらうがいができますので看護師にお知らせ下さい	・水分がとれます(最初はお茶、水にして下さい) ・昼から普通食です				
安楽度	・病院内自由です	・病棟内自由です	・ベッド上安静です 膝立て、寝返りはできません	・リハビリ、看護師の指示のもと、歩行練習をします				
排泄	・制限はありません		・手術中に尿を出す管が入ってきます ・便意を感じたらベッド上で排便介助をおこないます	(・持続の痛み止めの管が抜けてから)尿を出す管が抜きます				
清潔	・臍をきれいにした後シャワーをして下さい	・朝洗面、髭剃りを済ませて下さい		・看護師が身体を拭きます	・拭きにくいところは看護師が拭きます		・傷の状態応じてシャワー浴自由です	
説明同意	・主治医、麻酔科医より、手術、麻酔についての説明があります ・看護師より入院生活、手術についての説明があります ・薬剤師より薬の説明があります ・各種同意書類を提出して下さい	・義歯、指輪、ピアス、コンタクトレンズなどは取り外し可能なものは外して下さい	・家族の方は手術中は、お部屋かデイルームでお待ちください	・深呼吸をしましょう ・痛みや苦痛があれば看護師に伝えましょう ・看護師とともに動きの範囲を広げましょう				・看護師より退院指導を行います

※病名は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得ます。

※入院期間や治療内容は現時点で予測されるもので、症状により変わります。